

平成
18年度

水道事業会計の決算状況

炊事や洗濯、入浴などわたしたちの生活に水は欠かせません。市は、安全で良質な水道水を安定的に供給するため、市民の皆さんからいただく水道料金を主な財源として、水道施設の整備や維持管理などを毎年度実施しています。

今月号では、表を使いながら平成18年度水道事業会計の決算状況をお知らせします。



▲幌別浄水場取水口

水道事業会計の概要

水道事業は、地方公営企業法に基づき地方自治体が経営する企業として運営されています。

会計制度は、企業の経営成績や財政状態を明らかにするため、企業会計方式を採用しているほか、事業に必要な経費は経営に伴う収入（水道料金収入）をもって充てるという独立採算制を原則に経営しています。

このため、事業の運営に当たっては、本来の目的である公共の福祉を増進するとともに、常に効率的な事業運営を図り、企業の経済性を発揮することが求められています。

水道事業は、将来にわたり市民の皆さんへ安定給水することを使命としており、そのためには、水源の確保や水道施設の整備などの事業が不可欠になっています。

給水の状況

(平成18年度)

給水人口	52,614人
給水戸数	22,020戸
年間給水量 (1日1人当たり 平均231リットル)	4,430,371立方メートル
平均配水量 (1日当たり)	14,083立方メートル

収入と支出の概要

◎収益的収支

収益的収支とは、水をつくり、ご家庭に水をお届けするための収支を表したものです。

収入合計は、予算の8億9,918万円に対し決算は9億75万円で157万円の増となりました。

一方、支出合計は、予算の8億9,038万円に対し決算は8億8,373万円で665万円の減となりました。

この結果、収支決算は、予算の880万円に対し1,702万円の黒字となりました。

この黒字額については、国などからの借入金の今後の元金償還に備えるため減債積立金に202万円、配水管の更新などの施設整備に備えるため建設改良積立金に1,500万円を積み立てする予定です。

◎資本的収支

資本的収支とは、配水池の建設や配水管の整備などに使用するための収支を表したものです。

収入合計は、予算の1億1,653万円に対し決算は1億853万円で800万円の減となりました。

一方、支出合計は、予算の5億2,916万円に対し決算は4億7,677万円で5,239万円の減となりました。

この結果、収支決算は、予算の4億1,263万円に対し3億6,824万円の財源不足となりました。

この不足額については、収益的支出のうち現金の支出を必要としない費用の減価償却費など内部留保している損益勘定留保資金で補てんしました。

【収益的収支】

項目	金額
収益的収入	9億 75万円
営業収益 (内給水収益)	9億 1万円 8億4,036万円
営業外収益	74万円
収益的支出	8億8,373万円
営業費用	7億1,934万円
営業外費用	1億6,025万円
特別損失	414万円
純利益	1,702万円

【資本的収支】

項目	金額
資本的収入	1億 853万円
企業債	8,290万円
負担金	2,563万円
資本的支出	4億7,677万円
建設改良費	2億6,380万円
企業債償還金	2億1,297万円
不足額	3億6,824万円